

12 元日の地震体験I

(川崎さん)

ちょっと具体的に当日の状況がどうであったか。私の例でお話させていただきます。

当日、私は自宅で母親と2人、例年通り正月を迎えていました。4時10分何をしていたか、というとテレビの前にいました。自分の大好きなテレビ番組、日本テレビの「笑点」ですね。見ようと。綾瀬はるかさんが出演されるので是非見たいとテレビの前に陣取っていました。

4時10分、揺れる1分前にちょっと揺れたのですよ。「これはなんじゃ？」という感じでおったのですが、4時10分「とにかく普段の揺れとは違う」長い長い、縦揺れとも、横揺れとも、つかない揺れが、自分としては、数分間は、続いたような感覚でした。

それで、どうしたかと言いますと、テレビが倒れないか？ ということで、テレビの台に体を寄せてテレビを支えたつもりでしたが、自分の体がふらつくので、逆にテレビの台にしがみつくような形で耐え忍びました。その喧騒(けんそう)が静まった頃に、ふと我に返り母親が自分に対して「早く外に出ろ」と、言葉で一生懸命外に出るように、鼓舞していたのですが、自分は体が硬直してしまって動けなくなっていて、どうしようと2～3分かけて玄関まで何とか転がりながら、母親も足が悪い中、一生懸命、母親は台所にいたのですね。

そこから出て来てくれて、母親も足腰、心臓が悪い。自分は自分の車いす、母親は自分が持っていたもう1台の車いすに座っていました。「さあ、これからどうしよう」と、外を見たら瓦が落ちているし、ガラスの割れた破片がいっぱいあって、とてもじゃないが、車いすでは行けないな、と思っていたところ、近所の過疎高齢地域ですが、比較的若い年齢の御夫妻が助けに来てくださいました。

そのお二方の力を借りて、自分と母親は車いすで近くの高台の神社まで逃げれたわけですが、自分の家の裏に小さな川がありますので、津波が押し寄せていて、家の多分自分たちが出る頃には来ていたと思うのですが、逃げる途中で後ろ見たら家の